

選手直前インタビュー 俺の出番だ!!



小嶋 敬二 (石川/74期)

この年になって、新しいトレーニングも始めます。オールスター前に1カ月くらい高地に住んで。今はそこから降りてきた方がベストと言われています。あとはどこまで仕上がるか。(オールスターで)結果が出れば、疲れを取って富山記念にもつながると思います。オールスターと富山記念は一つと思っています。

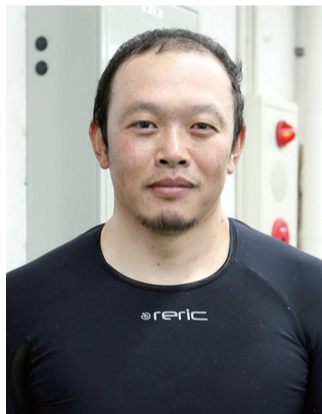


松崎 貴久 (富山/82期)

自分にとっては、地元記念が本番ですからね。そこに向けて、(調子を)上げて、しっかりと仕上げていきたい。去年は調子良かったんですけど、地元記念が(一次予選を落車失格で)もったいなかった。あれで、そのあとのリズムが狂ったところもある。だから、今年はそのぶんもってという思いがあります。

大塚 英伸 (静岡/82期)

今年は決勝に乗れない場所が多かったが、6月弥彦では待望のS級初優勝を達成した。その後は7月大宮、同月川崎で決勝に進出している。久しぶりの記念開催でハッスルしそうで突っ込みには警戒したい。



河野 通孝 (茨城/88期)

8月向日町で今年初V。決勝は、目標の木暮安が打鐘先行と展開にも恵まれたが、稲垣裕のまくりを的確なブロックで止めた動きは光っていた。ここも上位進出は十分で、位置があるレースは絶対に見逃せない。



佐々木 豪 (愛媛/109期)

順調に出世街道を突き進んでいる。S級で優勝経験はないものの、5月名古屋記念で決勝に乗るなど、上位クラスを脅かす存在だ。この開催の前に初めてG1オールスターを走るので、更に成長した姿を披露する。

S級ブロックセブン

9/2 (最終日) 6R

ブロックセブンとは

「推理しやすい、わかりやすい、的中しやすい」をコンセプトにした、競輪独特の「地区」の色合いをより濃く打ち出したS級7車立ての新たな単発レース。

波乱を呼べば竹内だ。落車の影響もなくなくなった松戸記念では2勝。組み立ての甘さはあるが、パワーは一級品だ。落ち着いて駆けられれば押し切りも。単騎で前々へ攻め上がりそうな朝倉佳弘も有力な候補だ。

今回のブロック7は、松岡健介―伊藤正樹の中近コンビが格の違いを見せる。松岡は、8月松戸記念を⑤③②⑤着で優勝。7月取手でのゴール後落車はあったが、逆に身体を休ませられてリフレッシュ。早めの巻き返しで時田英をねじ伏せた一次予選、目標不発の展開から自力に転じた準決とタテ攻撃が冴えていた。ここも積極的な竹内翼、小酒大勇を射程に入れ、一撃を見舞う。伊藤も8月川崎G3で優勝と、まだまだしぶとい。

松岡健介が
貫録を示す



松岡 健介